

平成 年産作柄概況・(予想)収穫量・共済減収調査
水稻 作況標本(基準)筆調査票
減収標本

記入見本 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

調査者
氏 名

年産	作物	局・農政事務所	センター	作柄表示地帯	作況階層	標本単位区	筆番 通し号
西暦	水稻						
2 0	:	:	1 1 0	:	:	:	:

市町村	旧市町村	農業集落	調査区	経営体	緯度 度 分	経度 度 分	標高 m
:	:	:	:	:	:	:	:

共済引受方式		筆種類		地方設定コード								継続年数	
一筆	半相殺	全相殺	標本筆	基準筆	A	B	C	D	E	F	G		H
1	2	3	1	2	:	:	:	:	:	:	:	:	:

筆の所在地	市町村	大字	小字	姓	氏名
耕作者住所	市町村	電話()			
					筆の刈取予定日 月 日

1 観察・聞き取り事項

品 種 (品種名)	種		作 期		普通作区分			栽 植 様 式						田 植 期	出 穂 期							
	うるち	もち	早期	普通	一期作	二期作	早生	中生	晩生	機械植え	手植え	直播	まき			種 期						
:	:	1	2	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	4	5	6	:	:	:	:	:	:

農家の刈取り期 月 日	刈取り時の倒伏程度					農家の刈取り方法				刈逃し筆	肥培管理の良否		選使用目	別にしている幅	玄米選別形態	
	I	II	III	IV	V	普通型	手刈り	コンバイン	脱穀機		籾の作付面積 a	良				否
:	1	2	3	4	5	1	2	3	4	:	:	1	2	3	:	:

(作況基準筆調査のみ)

水 管 理 の 実 施 期 日							
間断かん水		中 干 し		深水管理()回		高温時のかけ流し()回	
開始期日	終了期日	開始期日	終了期日	開始期日	終了期日	開始期日	終了期日
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
:	:	:	:	:	:	:	:

落 水 期 月 日	施 肥 期 日				10a当たり窒素投入量							
	基 肥	追 肥			基 肥	追 肥						
		中間追肥	穂 肥	実 肥		(銘柄)	中間追肥		穂 肥	(銘柄)		
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	kg	kg	kg	kg	kg	kg
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

窒素投入量つづき		10a当たり有機質肥料投入量				除 草 剤 回 数	病 害 防 除 回 数	土 性		
追肥つづき								砂 壤 土	壤 土	埴 土
実 肥	たいきゅう肥	緑 肥	生わら	その他						
(銘柄)	(種類)	(種類)	(種類)	(種類)	kg	kg	kg	kg		
:	:	:	:	:	:	:	:	1	2	3

(記入注意)

- 倒伏程度は、全倒伏(I)、一部穂が地につく(II)、半倒伏(III)、直立と半倒伏が半々(IV)、倒伏なし(V)に区分し、該当番号を○で囲む。
- 緯度、経度、標高及び土性欄については関連資料に基づき記入すること。
- 10a当たり窒素投入量については、数回に分けて施肥する場合、その合計量を記入すること。

4 2 1 1

2 栽植密度

畝幅・株間測定		畝幅〔11けい間の長さ〕	株間〔11株間の長さ〕	1㎡当たり株数(けい長)	刈取り株数
	I	cm	cm	株(cm)	株
	II			.	
	III			.	
	合計	(1)	(2)		・ ・ ・
	平均	(3) (1)/30	(4) (2)/30		
(5)	1㎡当たり株数	$\frac{10,000}{(3) \times (4)}$	株	1㎡当たりけい長	$\frac{10,000}{(3)}$

3 刈取り調査

刈取り日	月	日	露	有	無	
刈取り方法	$\frac{3\text{㎡当たり整数株刈り}}{3\text{㎡刈り}$	① ②	調製方法	① ②	① ②	
			総合選別機	段ぶるい		
刈取り試験料	全量	縮分重量				
	未調製生もみ重	g	g			
	未調製乾燥もみ重	g	g			
	粗玄米重	g	g			
	玄米重	g	g			
	くず米重	g	g			
玄米水分	%	%				
千粒重測定	粗玄米	重量 g	1回	2回	合計	
	玄米	重量 g				
	くず米	重量 g				
	粗玄米	粒数 粒				
	玄米	粒数 粒				
	くず米	粒数 粒				
	再選別歩合	%				

段別重量測定	総量	2.20以上	2.10	2.00	1.95	1.90
	1回	g	g	g	g	g
	2回					
合計						
	1.85	1.80	1.75	1.70	1.60	底
	g	g	g	g	g	g

調査箇所略図	標本単位区内	生育、登熟の特徴
全けい数 n=	水稻作付筆数	
間隔 $\frac{1}{3}$ n=	筆	
ランダム		
スタート a=第	けい	

(記入注意)

- 合筆の上調製した場合は、合筆調製整理表から千粒重等を転記する。
- 総合選別機により調製した場合のくず米重は1.6mm目以下、粗玄米重は玄米重とくず米重の合計重量とする。

4 草丈・茎数・穂数・もみ数調査

調査所	調査株号	月 日調査		月 日調査						月 日調査						月 日調査	
		草丈	茎数	全穂数 (茎)	穂数	無効穂数	有効穂数	全もみ数		全穂数 (茎)	穂数	無効穂数	有効穂数	全もみ数			
								最高穂	下・2					最高穂	下・2		
I	1	cm	本	本	本	本	本	粒	粒	本	本	本	本	粒	粒		
	2																
	3																
	4																
	5																
	6																
	7																
	8																
	9																
	10																
	小計																
II	1																
	2																
	3																
	4																
	5																
	6																
	7																
	8																
	9																
	10																
	小計																
III	1																
	2																
	3																
	4																
	5																
	6																
	7																
	8																
	9																
	10																
	小計																
合計	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)					
平均(M)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18) $\frac{(11)+(12)}{20}$	(15)	(16)	(17)	(18) $\frac{(11)+(12)}{20}$							
1㎡当たり(M)×(5) ただし(22)=(18)×(21)	(19)	(20)	(21)	(22)	100粒	(20)	(21)	(22)	100粒								

(記入注意)

- 穂数調査ですじまき(植)の場合は60cm間について調査する。
- 出穂開花期に当たり周辺4箇所調査を行う場合は、ほ場の4辺の中央において第4列目の10株ずつ、合計40株を調査する。ただし、次回に規定の箇所ですじまきについて調査を行う。
- 全もみ数調査は、筆内の穂数調査箇所ごとに3、4、3、計10株について行う。調査株は箇所ごとの平均有効穂数に近い株とし、調査方法は当該株有効穂の最高穂とかん長順位で下位より2番目の穂の全もみ数を調査する。

